

繁殖期を迎えたカニ類

■抱卵したカニ

今月も昨年までイシガレイを採集した河口域(Fig.1 E地点)には入れなかった。先月と同じ場所(レポートNo187参照 Fig.1 F地点)で採集を試みたが、1匹も採集することはできなかった。

Fig.1は2018年8月の画像で、現在は堤防工事がさらに進んでいる。気温が上がり、蒲生干潟各所でカニ類が活発に活動している。A地点にはヨシが増え、アシハラガニが分布している。また、水際の泥地にはチゴガニが分布し、盛んにウェビングの様子が観察された。Fig.2はA地点の水辺であるが、泥地にはチゴガニ、水際から離れた砂地にはコメツキガニが棲み分けている。B地点の水路では、宮城県レッドデータブック準絶滅危惧 (NT) に指定されているアリアケモドキを採集した(Fig.3)。過去に河口域のEで採集しているが、潟湖内では初めての採集である。B地点の水路内では抱卵したアシハラガニ(Fig.4)も採集している。C地点は人工的に溝を掘った結果できた湿地である。ここで昨年は観察できなかったヤマトオサガニを採集した。ヤマトオサガニは湿った泥地を好み、このような環境は蒲生干潟には少なく貴重な環境である。なおこの個体は抱卵したメスであったが(Fig.5)、蒲生干潟のヤマトオサガニの個体数は少なく、オス個体と巡り会うことができるのか危惧される。D地点にはカキ礁が形成されており、ケフサイソガニが分布している。



(Fig.1 蒲生干潟 2018年8月撮影)



(Fig.3 アリアケモドキ)



(Fig.4 アシハラガニ)



(Fig.2 A地点の水辺)



(Fig.5 ヤマトオサガニ)